

平成28年度 群馬県立県民健康科学大学大学院入学者選抜方法の概要

看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)／診療放射線学研究科診療放射線学専攻(博士後期課程)

選 抜 区 分	一 般 選 抜	社 会 人 特 別 選 抜					
修 業 年 限	3年(但し、長期履修制度適用の場合は最長6年)						
募 集 人 員	看護学研究科看護学専攻……………2名 診療放射線学研究科診療放射線学専攻…2名	看護学研究科看護学専攻……………若干名 診療放射線学研究科診療放射線学専攻…若干名					
出 願 資 格	次の①から⑧までのいずれかに該当する者、又は次の①から⑧までのいずれかに平成28年3月31日までに該当する見込みの者 (両研究科共通) ①修士の学位又は専門職学位を有する者 ②外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ④我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ⑤国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者 ⑥外国の学校、出願資格④の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者 ⑦文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第118号) ⑧本研究科において個別の入学資格審査により修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、平成28年3月31日までに24歳に達するもの	(看護学研究科) 保健・医療・福祉施設、教育研究機関、官公庁又は企業において、専門的な実務経験を有する者で、かつ、一般選抜試験出願資格①から⑧までのいずれかに該当するもの (診療放射線学研究科) 保健・医療・福祉施設、教育研究機関、官公庁又は企業において、専門的な実務経験を有し、入学後もその身分を継続する者で、かつ、一般選抜試験出願資格①から⑧までのいずれかに該当するもの (注)出願資格のうち「一般選抜」の⑦又は⑧により出願を行おうとする者(「社会人特別選抜」において「一般選抜」の⑦又は⑧に該当するものとして出願を行おうとする者を含む。)は、あらかじめ個別の出願資格認定審査を受け、合格した場合に出願することができる。					
出 願 前 面 談 期 間	随時(指導を受けようとする教員と出願前に面談が必要。但し出願資格認定審査が必要な場合は審査に間に合うように面談をしてください。)						
出 願 資 格 認 定 審 査 申 請 期 間	平成27年12月18日(金)～平成28年1月5日(火) (⑦又は⑧により出願を希望する者。1月5日付消印有効)						
出 願 期 間	平成28年1月15日(金)～1月28日(木)(郵送による出願。1月28日付消印有効)						
入 学	試験期日	平成28年2月13日(土)					
	試験会場	群馬県立県民健康科学大学(〒371-0052 前橋市上沖町323番地の1)					
学 選 抜 方 法	試験会場までの交通手段	バス: JR前橋駅北口6番バス乗り場から「荻窪公園」又は「小坂子」行きバスに乗車の上、「県民健康科学大学前」バス下車(JR前橋駅から約15分) 電車: 上毛電鉄「片貝駅」下車、徒歩約15分					
	研 究 科 別 選 抜 方 法	<table border="1"> <tr> <td>看護学専攻</td> <td>・[外国語](英和辞典の持込み可。但し電子辞書は不可) ・[口述試験] ・書類審査</td> <td>・[外国語](英和辞典の持込み可。但し電子辞書は不可) ・[口述試験] ・書類審査</td> </tr> <tr> <td>診療放射線学専攻</td> <td>・[外国語](英和辞典の持込み可。但し電子辞書は不可) ・[口述試験] ・書類審査</td> <td>・[外国語](英和辞典の持込み可。但し電子辞書は不可) ・[口述試験] ・書類審査</td> </tr> </table>	看護学専攻	・[外国語](英和辞典の持込み可。但し電子辞書は不可) ・[口述試験] ・書類審査	・[外国語](英和辞典の持込み可。但し電子辞書は不可) ・[口述試験] ・書類審査	診療放射線学専攻	・[外国語](英和辞典の持込み可。但し電子辞書は不可) ・[口述試験] ・書類審査
看護学専攻	・[外国語](英和辞典の持込み可。但し電子辞書は不可) ・[口述試験] ・書類審査	・[外国語](英和辞典の持込み可。但し電子辞書は不可) ・[口述試験] ・書類審査					
診療放射線学専攻	・[外国語](英和辞典の持込み可。但し電子辞書は不可) ・[口述試験] ・書類審査	・[外国語](英和辞典の持込み可。但し電子辞書は不可) ・[口述試験] ・書類審査					
合 格 発 表 日	平成28年2月19日(金)						
入 学 手 続 期 間	平成28年2月29日(月)～3月4日(金)(郵送、3月4日必着)						
入 学 試 験 料	30,000円						
授 業 料 等 (平成26年4月1日現在)	入学金 141,000円(県内者:入学金について群馬県内者は半額) 282,000円(県外者) 授業料 535,800(年間)						
	・夜間開講、集中講義、長期履修制度により、社会人学生の学業と仕事の両立に配慮しています。						

博士後期課程 平成28年4月1日開設

GCHS 群馬県立県民健康科学大学大学院

- 看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)
- 診療放射線学研究科診療放射線学専攻(博士後期課程)



**看護学研究科
看護学専攻(博士後期課程)**

入学定員	修業年限	学 位
2名	3年*	博士(看護学)

※最長6年まで長期履修可

**診療放射線学研究科
診療放射線学専攻(博士後期課程)**

入学定員	修業年限	学 位
2名	3年*	博士(放射線学)

※最長6年まで長期履修可

問合せ先

群馬県立県民健康科学大学

〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL:027-235-1211 FAX:027-235-2501
URL: <http://www.gchs.ac.jp/>

※本学へのアクセスは、右記のURLをご参照ください。<http://www.gchs.ac.jp/about-univ/outline/access>



学長 高田 邦昭

本学の大学院には、看護学研究科と診療放射線学研究科の二つの研究科があり、看護学・診療放射線学の理論・応用の教授・研究を通じて、高度な知識・技術を身につけます。看護学研究科では、医療機関等における院内教育や管理にあたる実践的指導者となる人材の育成を図ります。診療放射線学研究科では、CT・MRI・重粒子線治療など急速に高度化が進む医療機器に対応した高度な知識・技術を持つ人材など、画像診断や放射線治療を支えるリーダーとなる人材の育成を図ります。

本学の大学院は、医療の現場で活躍中の方々をはじめとして、社会人にも広く門戸が開かれています。職業を持つ方々のための社会人入試や、入学後も仕事を続けながら計画的に授業を受けられるよう、夜間開講、集中講義等の多様な授業方法を展開しています。

皆さんの入学を心よりお待ちしております。

看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）

Graduate School of Nursing, Department of Nursing (Doctoral Program)

自律的に研究を行い、看護実践に役立つ専門性の高い知識を産出し、学術的基盤に基づく管理・教育・研究の視点をもって看護の機能を発展させることに貢献するとともに、それを他の看護職者に普及できる人材の育成を目指します。

特色

- 看護専門職者としての機能の発揮に必要な能力・質の高い教育の提供に必要な能力・研究遂行に必要な能力の修得に関わる専門科目を設定し、これらの履修により得られた学習成果が「特別研究」に統合され、段階的に能力を獲得できるカリキュラムを編成している点が大きな特色です。
- 多職種と協働して組織運営に参画し、管理的機能を発揮するための教育及び研究を展開します。
- 高等教育としての看護学教育に精通し、専門的知識・技術と指導力を駆使して質の高い教育を実践するための教育及び研究を展開します。
- 臨床現場に存在する多様かつ複雑な問題の解明とその成果の適用を通し、組織内の研究活動を推進するための教育及び研究を展開します。

教育研究

研究科長：齋藤 基

主な研究課題
組織の管理・運営、看護職が働く場の環境整備に関する研究課題
看護基礎教育・継続教育、主に看護学実習に関わる研究課題
「教授＝学習過程」、看護における少数者に関わる研究課題
老年看護活動や疼痛管理に関わる研究課題
地域看護活動、在宅看護に関わる研究課題
ヘルスプロモーション、地域づくり支援活動に関わる研究課題
ロコモティブシンドローム等の運動機能の改善に関わる研究課題

※研究課題・指導教員等の詳細については、募集要項でご確認ください。
お急ぎの場合は、看護学研究科長(齋藤 基)までご相談ください。

看護学研究科（博士後期課程）授業科目

共通科目

- ・保健医療組織管理学特論 [2単位]

専門科目 6単位以上を履修

- 〈必修〉
- ・看護政策管理学特論 [2単位]
- ・看護教育学特論 [2単位]
- ・実践看護学特論 [2単位]

〈選択〉

- ・看護専門職の役割と責務 [2単位]
- ・倫理学特別演習 [2単位]
- ・プレFD特別演習 (大学教員としての基礎) [2単位]

特別研究

- ・特別研究II [6単位]

修了要件

本研究科に3年以上在籍し、所定の単位(16単位以上)を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験(口頭試問)に合格することが要件です。

履修方法

- (1) 特別研究II 6単位を必修科目として履修します。
- (2) 専門科目のうち、看護政策管理学特論、看護教育学特論、実践看護学特論の3科目6単位を必修科目として履修します。
- (3) (1)(2)以外の科目 4単位以上を選択科目として履修します。

※ なお、年間の履修単位は10単位(特別研究IIは含めない)を上限とします。

診療放射線学研究科診療放射線学専攻（博士後期課程）

Graduate School of Radiological Technology, Department of Radiological Technology (Doctoral Program)

診療放射線学に資する高度な研究能力を有し、研究成果を、群馬県をはじめ全国各地域の放射線診療に創造性をもって展開できる次の人材を養成します。

- 診療放射線学の研究を展開できる臨床研究者の養成
- 高度な教育指導力を備えた大学教員の養成
- チーム医療を積極的に推進できる放射線技術部門のリーダーの養成

特色

- 診療放射線学研究科博士後期課程では、学士課程から博士前期課程へと続く人間の尊重を重んじた教育を基盤として、臨床に即した学術研究を積極的に遂行することを通じて、人々の健康支援、疾病の予防、治療効果の向上への寄与を目指すと同時に、診療放射線学のさらなる発展に貢献します。
- 診療放射線学研究科に放射線画像検査学分野と放射線治療学分野を置きます。
- 画像処理並びに画像解析の研究開発能力の育成に重点を置いた教育及び研究を展開します。
- 高精度放射線治療の実践・推進・開発能力の育成に重点を置いた教育及び研究を展開します。
- 放射線技術部門のリーダー育成に重点を置いた教育及び研究を展開します。

教育研究と担当教員

研究科長：柏倉 健一

分野	教員名	主な研究課題
放射線画像検査学	教授 柏倉 健一	脳機能測定に関する研究課題
	教授 青木 武生	培養細胞の膜輸送に関する研究課題
	教授 小倉 明夫	磁気共鳴画像及びMRI検査に関する研究課題
	教授 小倉 敏裕	診療放射線画像の解析に関する研究課題
	教授 上原 真澄	造影検査におけるマイクロデバイス開発、及び生体物質の糖化と評価方法に関する研究課題
	教授 下瀬川正幸	医療画像情報学及び診療放射線学教育に関する研究課題
	准教授 高橋 康幸	トレーサー情報解析に関する研究課題
	准教授 根岸 徹	放射線診断装置に関する研究課題
	准教授 堀 謙太	コンピュータシミュレーションによる診療放射線学の疑似体験型教育に関する研究課題
	講師 渡部 晴之	医用画像処理に関する研究課題
講師 林 則夫	画像診断検査法及び医用画像解析に関する研究課題	
放射線治療学	教授 佐々木浩二	放射線治療技術学、放射線計測学に関する研究課題
	准教授 杉野 雅人	環境放射線(能)計測及び管理・防護に関する研究課題
	准教授 大野由美子	放射線物理学、放射線計測学に関する研究課題
	准教授 五十嵐 博	診療放射線部門におけるリスクマネジメントに関する研究課題

診療放射線学研究科（博士後期課程）授業科目

放射線画像検査学分野

- 共通科目 2単位以上を履修
- ・診療放射線学教育学特論 [2単位]
 - ・保健医療組織管理学特論 [2単位]

専門科目 2単位以上を履修

- ・放射線画像解剖学特講演習 [2単位]
- ・放射線画像解析学特講演習 [2単位]
- ・磁気共鳴学特講演習 [2単位]
- ・造影検査学特講演習 [2単位]
- ・機能画像学特講演習 [2単位]
- ・医療画像情報学特講演習 [2単位]

特別研究

- ・診療放射線学特別研究 [6単位]

放射線治療学分野

- 共通科目 2単位以上を履修
- ・診療放射線学教育学特論 [2単位]
 - ・保健医療組織管理学特論 [2単位]

専門科目 2単位以上を履修

- ・先端放射線治療学特講演習 [2単位]
- ・重粒子治療技術学特講演習 [2単位]
- ・放射線管理計測学特講演習 [2単位]

特別研究

- ・診療放射線学特別研究 [6単位]

修了要件

本研究科に3年以上在籍し、所定の単位(12単位以上)を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験(口頭試問)に合格することが要件です。

履修方法

放射線画像検査学分野又は放射線治療学分野のいずれかに所属し、共通科目から2単位以上、所属分野の専門科目から2単位以上、特別研究6単位を必ず履修し、残りの2単位は他の共通科目又は専門科目(所属分野以外の専門科目を含む)から選択履修します。なお、年間の履修単位は8単位(集中講義及び特別研究は含めない)を上限とします。